

別記一、

大島製鋼争議田本部発行

争議日報 No.64
毎日本部に寄席しろ

1939.10.11

此頃は大分古き争議を覚えて来たぞ。
もう六十日も前の事だから少しは産
割らだつてスーリカニ日本人だつて大
した事にも思はないかも知れぬが、そ
れこそ大きな間違ひだ。

争議団の出発率はその争議団の結束が
いんないに固くいんないに緊張してゐるか
を知らず一番の標準だ。

それにもう数は最後の踏ん張りには
あるぞ。町長や署長や調停員が葉巻し
たりは何を語つてゐるか。争議団が疲
れて来るば会社はそれ以上にもう焦り
かしてゐるのだ。
角かり時を考へて見るが好い。

米は續々送つて来るぞ。

今日日ス調田の消費組合から米が来るぞ。

俵か五俵の袋か五十俵か

ひるの一時から二時迄の間に来るから、めん
なデモで迎へるんだ。

米ビツタの二つは、いなりカスカ

何にもニわりの者は、いなり

腹に米さし這入つてゐりやあはれるの
は二つちの勝手だ。!

